

寄せられた意見

No. 50

受付日	H17. 7. 11	年齢	65歳	居住 市町村名	名寄市
件名	意見陳述				

意見陳述

平成17年 7月11日

意見者

氏名

年齢 65才

性別 男、女

住所

電話番号

名寄川氾らん「大水害」…その記録は、昭和30年7月、2日夜半から降った豪雨は4日未明まで続き、降雨量124ミリに達した。その集中豪雨は名寄川をも氾らんさせ大洪水となった。町の東部中名寄一帯が水中に没し、死傷者も出る「開町以来の大水害」と記されている。

こうした異常気象による大洪水は、あるいは100年に一度かも知れぬ。しかし、大水害の憂いは、あつかも知れぬ。洪水禍は、命・財産はもとより、営々として築き上げた生活基盤、田畑を一瞬にして奪ってしまう。その失地回復は莫大の負担^{時間}が必要であり得る。

私には流域住民にとって、憂いの多い日常生活と安心安全に生産活動に取り組むために、も高度な洪水調節機能をもったサニタムの建設が是非と考え得る。

おし、名寄市民にとって命の水であり得る名寄川の水量は、現状で見ると心細いものがあり得る。人々の暮らしにおいて、生活の質の向上と共に生活用水の量はどんどん増えていくといわれている。地域住民の豊かな暮らしは、豊かな水に委ねられると、大きいものがあると思える。安全で安定した水源の確保は、危か叫びかけられている。流域の市民生活基幹産業を支えてくれる豊かな水、その安定した水源の確保からもサニタム本体の一日も早い完成が待たれる。